

オンライン学習者のライフイベントと自己効力感が学習に与える影響 - 予備的なアンケート調査と今後の検討 -

Impact of life events and self-efficacy on learning progress of online learners
- a preliminary questionnaire and future investigation -

鈴木 克明 合田 美子 鈴木 克明 中野 裕司
Yoshiaki SUZUKI Yoshiko GODA Katsuaki SUZUKI Hiroshi NAKANO

熊本大学大学院 教授システム学専攻
Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

〈あらまし〉 本研究は、オンライン学習を行なっている社会人を対象とし、ライフイベントと自己効力感が学習に与える影響に関する調査と、影響下の学習者の支援を目的としている。今回は、オンライン学習者に対して予備的なアンケート調査を実施したので報告する。アンケートでは、自己効力感について、「一般性セルフエフィカシー尺度」によって個人の一般的な自己効力感の高さを測定するとともに、学習者の実際に経験したライフイベントとその学習に与えた影響等について調査した。予備的な結果ではあるが、ライフイベントが自己効力感の程度に依存する傾向が見られた。この結果を踏まえ、今後、調査方法の改善と、オンライン学習者の支援方法に関する研究を進めていきたい。

〈キーワード〉 ライフイベント, 自己効力感, GSES, オンライン学習

1. はじめに

学習者を取り巻く環境は、個人により大きく相違する。特に、社会人学生でオンラインにて学習を行なっている者は、年齢・生活地域・職業・家族構成などの個人を取り巻く環境は様々である。更にはライフイベント（結婚・離婚・転職・異動・死別など）をきっかけとした環境の変化は、社会人でない一般学生と比較して生じやすいと考えられる。

一般学生の自己効力感とライフイベントの関連に関する研究(勝岡 2012)や、オンライン大学生の入学動機とライフイベントに関する研究(田中ら 2013)はあるが、社会人オンライン学習者について、ライフイベントによる環境の変化と自己効力感が学習にどのような影響を及ぼすかは、調査した範囲では、まだ明らかになっていない。

本研究の目的は、オンライン学習をしている社会人に対し、自己効力感を測定したうえ、ライフ

イベントと学習についての調査を行い、その影響の有無について明らかにし、その結果をもとに、学習者支援へと繋げていくことである。

今回は、研究を進めるにあたり、予備的なアンケート調査を実施した結果を中心に報告する。

2. 研究の方法

アンケートは、自己効力感の測定とライフイベントの調査の2つに分かれ、以下に各々を示す。

2. 1. 自己効力感の測定

自己効力感に関しては、一般性セルフエフィカシー尺度 (General Self-Efficacy Scale:GSES) (坂野 1986) を用いた測定を行った。一般性セルフエフィカシー尺度とは、個人の一般的な自己効力感の高さを測定する尺度である。当該研究により信頼性・妥当性が確認され、16 の調査項目から成り立っている。

2. 2. ライフイベントと学習のアンケート

ライフイベントの学習への影響を調査するにあたり、アンケートでは2つの切り口を設けている。1つめは、現在ライフイベント影響下にあるかということと、現在の学習状況である。2つめは、過去の学習状況とその時ライフイベントの影響下であったか否かである。

2. 3. アンケート方法

熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻はオンライン学習を中心にカリキュラムが構成されている。当該専攻で実際にオンライン学習を行っている社会人学生4名に、電子媒体(Excel)で作成したアンケートを電子的に配布・回収した。

3. アンケート結果

表1に自己効力感に関するアンケートによるGSESの採点結果を、表2にライフイベントと学習に関するアンケート結果の一部を抜粋して示す。ライフイベントの種類、遅延の理由等、記述式で調査しているが今回は省略する。表2 I-1より、4名中3名は現在もライフイベントの影響下にあり、その内容は、転職、異動、組織変更、人間関係、職場の物理的環境変化等であった。協力者数は少ないが、ライフイベントはオンライン学習者にとって身近なものと考えられる。

また、同III-1、IV-2より、協力者AとDは、ライフイベントの影響で学習状況が予定より遅延した経験をもつ。記述式回答内容も鑑み、Aは現在まで遅延が続いているのに対し、Dは現在の学習状況を「予定通り」としている。これは、表1の自己効力感の程度に関して、Aが低く、Dが高いことに対応しているようにみえる。

4. おわりに

今回は、協力者数が少ないことから予備的な結果ではあるが、オンライン学習者にとってライフイベントは身近にあり、その学習に与える影響は

GSESで測定した自己効力感の程度に依存する傾向が見られた。また、自己効力感の変化やライフイベントの時期等、アンケート内容の検討が必要であることがわかった。

今後、オンライン学習者のライフイベント、自己効力感、学習進捗等の関連性について、より詳細な調査を進めるとともに、ライフイベントや自己効力感の程度によって学習者支援を行う仕組みを検討していきたい。

参考文献

- 勝岡大貴(2012) 大学生の自己効力感とライフイベントの関連について, 大阪経大論集 63(2): 219-225
- 田中理恵子, 向後千春(2013) オンライン大学に入学した社会人の入学動機の分析, 日本教育工学会研究報告集 13(4): 73-80
- 坂野雄二(1986) 一般性セルフ・エフィカシー尺度作成の試み, 行動療法研究 12(1): 73-82

表1. GSES 採点結果

採点結果\協力者	A	B	C	D
GSES 合計点	1	11	7	12
自己効力感の程度	非常に低い	普通	低い傾向	高い傾向

表2. ライフイベントと学習に関するアンケート結果の一部(理由等記述式回答を除く)

アンケート項目\協力者	A	B	C	D
I-1. 現在ライフイベントの影響下かどうか	Yes	No	Yes	Yes
II-1. 現在の学習状況	遅延	休学中	遅延	予定通り
II-3. 遅れている場合、その遅延の程度	1年半		半年	
III-1. 今まで学習進捗で遅延したことがあるか	Yes	Yes	Yes	Yes
IV-2. 上記Yesの場合、ライフイベントの影響下であったか	Yes	No	No	Yes